

戸畑区日本共産党後援会ニュース

とばたの風

第51号

2015年10月発行

発行責任者
配川 寿好

北九州市戸畑区
天籟寺1丁目1番15号
Tel.873-3735
(部内資料)

新しい署名運動がスタート 戦争法廃止へ 大きく広げましょう！

9月19日を忘れない

FYMラフオカ ユースムーブメント Kitagouメンバー

崔 春海さん

先月19日、安保法案成立。覚悟してはいましたが、現実目の当たりにすると、やはり悔しかったしショックでした。そして法案成立から一週間を経ずして、安倍政権はアベノミクス第二弾を掲げました。あたかも「この数か月間が特別だったのだ」とでも言いたげに政権側は、このひと夏の出来事が忘れ去られるのを虎視眈々と狙っています。

微力でも ひとつになれば

私はこの2か月の間、私たちひとりひとりの持つ力の存在を強く感じてきました。それは微力であっても、ひとつになればどんな権力



九州大学法学部3年・北九州市在住

「9月19日を忘れない」、この思いを私はこれから一人でも多くの人と共有していきます。そして、それを安保法成立後の運動の第一歩としていこうと思います。

思いを共有し 新たな一歩へ

1. 国民世論を広げ安倍政権を打ち倒そう！
2. 戦争法廃止へ「国民連合政府」を！
3. 次の国政選挙で野党の選挙協力を広げよう！

廃止へ、たたかいは続く

強行採決で成立した憲法違反の「戦争法」の廃止と閣議決定の撤回をめざし、たたかいは続いています。



壇上の発言に拍手をおくる集会参加者＝2日、東京・日比谷野外音楽堂（しんぶん赤旗 10月3日付より）

戦争法廃止と 閣議決定撤回へ

政党、団体、個人が共同して

日本共産党が呼びかけ



9月23日に北九州市小倉北区の勝山公園で開かれた安保法制（戦争法）の廃止をめざす「市民集会」は1500人の参加で盛り上がった。

市民は平和をあきらめない

「戦争法」廃止を」と1500人



8月30日、楽しい中にも「平和を守る」の思いを発信しました

第30回後援会ぶどう・梨狩りバスハイク

梨狩りバスハイク

ヨバサ!

戸畑には50年前11万人が住んでいた。その頃「七中大会」という運動会があった。七つの中学から生徒が集まり力と技を競った。今は四校に

なり25年後には三校になると予想されている▼安倍政権は新三本の矢を掲げ、第二の矢として「夢をつむぐ子育て支援」を打ち出した。女性の希望出生率を1・8にするという。この希望出生率ほどのよいうな意味か不明だが、とにかく産めよ増やせよと聞こえる。菅官房長官が有名人の結婚について「子供を産むことで国家に貢献を」との趣旨ととれる発言をした。▼そのような内閣が、戦争法案を参院で強行可決させた。その直後の反対集会に参加した。子ども連れの家族の参加が目についた。以前の集会とは雰囲気変わったと感じた。子どもたちの未来に関わるということで集まったのだらう。演壇で野党の代表らがあいさつし、主催の青年が「野党は団結を」とよびかけた。▼敗戦から70年かけて築いてきた平和を、一瞬の暴挙でふいにしてしまった。多数という陰に隠れて、日本を戦争に導く人間を国民の代表にしておくことは、未来の人たちに対して無責任である。私たちはしっかりと記憶し、まずは衆議院を解散に追いこみ総選挙、そして参議院選挙で戦争法案を破棄しよう。



南スーダンでのPKO活動で危険にさらすな 派遣部隊に北方駐屯地からも62人



北九州市議会議員
荒川 徹

安部政権の「戦争法」強行の動きと、国民の反対世論がぶつかるなかで開かれた9月の市議会。私は北橋市長に対し、「憲法違反の法案の撤回を求めるべきだ」と迫りました。

いま、アフリカ中央部の南スーダンにPKO（国連平和維持活動）で派遣されている約350人の陸上自衛隊員のうち、62人は小倉北方駐屯地

の隊員です。

今回の戦争法で、南スーダンで自衛隊員が「駆けつけ警護」など、これまでになく危険な活動を行うとする「自衛隊内部文書」が国会で暴露され、自衛隊員が「いのちの危険」にさらされるという恐れが格段に高まっています。

自衛隊法で、隊員の募集活動などを課されている市として、自衛隊員が危険にさらされようとしていることに、黙っていていいのかと、率直な思いで質問しました。市長は、「関心を持って、国民的議論

が今後どう進むか注視したい」というのみ。もどかしい限りです。

「戦争法廃止を」の意見書 自民、公明が市議会で否決

9月市議会最終日の10月6日、日本共産党と民主党系会派が意見交換したうえで、政府に「戦争法廃止」を要請する意見書を提出しましたが、自民、公明などの反対で否決されました。一日も早い「戦争法」廃止と、集団的自衛権は合憲とする閣議決定の撤回へ、たたかいは続きます。

書くことが私の自己実現

—とばたの新人女流作家—

竹内 七奈さん (40歳) 北鳥旗在住



戸畑にこんな才能が隠れていたとは知りませんでした。日本民主主義文学会の2014年『民主文学』新人賞を受賞したことで、多くの人に存在を知られるようになりました。

戸畑生まれで戸畑育ち。小柄でやせ型の七奈さんのどこにそんなパワーがあるのかと驚きますが、20代から様々な文学賞に小説や随筆を応募し続けてきたといいます。

元々一人っ子で、父親が知人と酒を飲みかわしている横で、本を読みふけているような子どもでした。しかも、10代で両親が離婚し、友達ともうまくいかず、学校にも行かなくなって周囲から孤立してしまった七奈さんにとって、憤懣のはけ口が文章を書くことだったのです。

以来、時に中断することはあっても、小説を書いてきましたが、30代に入った頃、同居していたお父さんが病気になってしまい、やむなくアルバイトをしなければならなくなりました。様々なバイトの場で起きたこと、出会った人が題材となり、期せずして労働現場を描くことになりました。受賞作の「せつなげな手」も郵便局という職場の実態、その中で働く若者の苦悩を通して日本社会のひずみを浮き彫りにしています。

ご本人の語り口も小説も、簡潔で無駄がなく、それでいてスケール感があり、つい引き込まれます。作家一本で生活していける日が早く来るように私たちも願っています。

戸畑古図から見えてくるもの

戸畑郷土史会会員 安田 潤児

昭和十四年十二月十日発行の戸畑市史の巻末に戸畑古図文政天保頃、約二百年くらい前の戸畑村の地図が記載されている。この地図に記されている文言を全て書き出して見た。そこから必ず見えて来るものがあると思う。

まず遠賀郡戸畑村の洞海湾に浮かぶ島がある。中嶋、ミヤコ嶋、俵子嶋、若松村抱カハ嶋、鼠嶋、ハタカ嶋、松ヶ

昭和十四年十二月十日発行の戸畑市史の巻末に戸畑古図文政天保頃、約二百年くらい前の戸畑村の地図が記載されている。この地図に記されている文言を全て書き出して見た。そこから必ず見えて来るものがあると思う。

社、クワンラン、真宗照養寺、八幡宮、祇園社、若松村江渡海場（戸畑村・漁人）弁財天、古宮の森、牧山御開作（汐井崎）、ミロクの森（ミロク）、貴船社、稲荷社、ヤクシ、クワンラン、天満宮（天籟寺）、枝光え内犬河江通ル道（牧山）、枝光村江通ル道（天籟寺、大谷）、中原村え内祖父ヶ谷江通ル道、中原村江通ル道、澤見堤戸畑村中原村催合。

以上が戸畑古図に記載されている文言の全てです。これらの文言と天籟寺に残っている明治時代の天籟寺を参考にしながら調べていくことにする。

参考までに、澤見堤戸畑村、中原村催合とあるのは催合（もあい、舩い）解説もやり舩いと書くもやうこと、船と船とをつない合せること、転じて両方で分けあう。境界のこと。

※戸畑古図 参照



くすりのことなら ふれあい薬局戸畑店

戸畑区新池1丁目5-30

☎093-881-2332